

令和元年度(2019年/2020年)事業計画

自 平成31年(2019年)4月1日

至 令和元年(2020年)3月31日

一般社団法人日本望遠鏡工業会では非営利性を目的としての令和元年度(2019年/2020年)活動を実施し、4委員会を中心に公益性の高い事業を行うと共に、入門者に向け双眼鏡・望遠鏡の魅力を広く告知し、需要拡大、業界の活性化に向けた活動をさらに推進する。

以上を踏まえ、当工業会は、令和元年度(2019年/2020年)の事業活動を以下の通り実施する。

1. 国際標準化規格関連事業の推進

- 1.1 ISO/TC172/SC4:オーストリア共和国・ウイーン市において、5月21日から開催されるSC4会議、及びWG2の国際会議に派遣対応し、日本側意見を集約し積極的に提案していく。
- 1.2 JIS:来年度テーマについて事前検討を進める。

2. 広報活動の推進(ホームページ・イベント・歴史関連)

- 2.1 ホームページ:会員専用ページは、10月開設を目標として整備を進める。
- 2.2 イベント出展予定:すそ野拡大と入門者に向けて普及活動をおこなう。
 - 2.2.1 経産省こどもデー(8月7日～8日)
 - 2.2.2 ジャパンバードフェスティバル(11月3日～4日)
 - 2.2.3 CP+2020(2月27日～3月1日)
- 2.3 歴史展示室については、さらなる整備と充実を図っていく。

3. 諸統計の作成整備

- 3.1 双眼鏡・望遠鏡の輸出入動向:財務省提供の輸出入統計は会員向けには会報にて、また一般消費者にはホームページでの掲載を継続する。
- 3.2 主力のプリズム式双眼鏡:自主統計は継続しつつ、他の情報ソース(JETRO統計等)についても検討を進める。

4. 関連行政機関との相互コミュニケーションの充実、関連団体の業務提携との連携維持

- 4.1 関連行政機関:内閣府、経済産業省、環境省、文部科学省、厚生労働省、東京都産業労働局とは調査依頼・情報共有・課題提案に対して迅速かつ綿密に対応する。
- 4.2 関連団体:
 - ・軽機械センター運営協議会(5業種・1団体)からは、主に欧州・中国情報について情報を得る。
 - ・日本光学工業協会(光学関係8団体で構成)及び(一財)日本規格協会とは、ISO/JIS/技能検定などの情報交換、及び協力体制を維持推進する。
 - ・(一社)日本映像用品工業会、(一社)天体望遠鏡博物館とは協力関係を維持推進する。
 - ・日本天文協議会を通じて、国立天文台、他の天文関連団体との協力関係を進める。
- 5.1 技術委員会主催による技術研修会を継続する。
- 5.2 業界活性化委員会は課題を共有し、国内市場の活性化を推進していく。